

患者を救えなかった元カウンセラーが、
もう一度誰かを救おうとする

富士山の侍

リライト 大岡俊彦

登場人物

さくら（30）元心理カウンセラー、いまは事務員。

カゲロウ（35）ARキャラクターで、侍。

タケル（30）プログラマーでARの設計者。

光之進（5）カゲロウの息子。

光岡（85）元映画スタア。

女（30）さくらの元患者

○ITオフィスの一室、実験ルーム

さくら「VRゴーグルをつけるさくら(30)。とかよく分ってないんですけど、ただの事務員なんですけど」

タケル(30)「でも昔カウンセラーやってたって聞いたんで、是非協力して欲しいんですよ」

さくら「誰から聞いたんですか」

さくらはゴーグルをつけながら、首の大きな傷に触れる。

さくら「カウンセラーってこととAIの問題と何の関係が」

タケル「見れば分ります」

VRの視界。

そこに現れたのは侍のCGモデル。

さくら「えっ」

ゴーグルの中ではカメラ映像にリアルタイムでその侍のCGが合成されている(A R)。

タケル「その侍、カゲロウっていうの。お蔵入りの映画のキャラから持ってきたんだけど、調子が悪くて」

さくら「おかしい？ バグとかじゃなくて？」

タケル「何回バグチェックしたと思ってるの。」

おかしいのは人格」

さくら「人格？」

侍、カゲロウ(35)は正座して目をつぶっている。

タケル「挨拶してみて」

さくら「え、あ、ハロー。違うわ。かたじけない。違うな。ねえ、侍の挨拶って何？」

タケル「おはようでいいんじゃないの？ 日本語通じるし」

さくら「そっか。あ、おはようございますカゲロウさん」

目を開けるカゲロウ。刀を抜いて一閃。

だがARなので実空間に影響はない。

さくら「……(動けない)……」

カゲロウ「む？　いつもの坊主じゃないな。お前なら話が分かるんだろうな？」

さくら「多分その為に呼ばれたのかと。……何があったんですか？」

カゲロウ「変なのだ。僕は山賊にさらわれた我が息子、光之進を助けようと富士山に向かった所だった。それが気づいたらここにいたのだ」

タケル「それ、お蔵入りになった映画の話。

途中で予算がなくなったらしい。この声、カゲロウには聞こえてないから」

さくら「で？」

カゲロウ「富士山に向かう前から、そもそも変なのだ」

さくら「変って？」

カゲロウ「誰か知らぬ奴の声が聞こえる。『殺してしまえ』『お前が悪いんじゃない』とかだ。気づいたらまったく知らぬ遠い所にいたこともある。なんなんだこれは。幻術にかかっているのか？」

さくら「違う。……それって……」
首の傷を触るさくら。

フラッシュバック、二年前。

診療所に勤めるさくら。患者に巨大なハサミで切りかかれる。

首を切られ、大出血。

カゲロウ「どうした？」

さくら「私の見立てですが……はつきり言いますと……はつきり言いますと……」

ちらりとタケルを見るさくら。

カゲロウ「なんだ？　はつきりと言ってくれ」

さくら「あなたは……あなたは、心の病にかかっています」

カゲロウ「？」

○ITオフィス、タケルの席

モニタには古い白黒映画。

カゲロウが映っている。

カゲロウ（映画内）「助けにゆくぞ！　富士山

へ！」

そこで映画は途切れ、黒になる。

タケル「お蔵入りのキャラならパクっても大丈夫って思ってたんだよ。だからこの映画をAIに学習させて……」

さくら「……」

タケル「でもここまで見たら分っちゃったな」

さくら「私でも分るわよこのネタバレ」

タケル「うん。これ、『実はカゲロウは狂った』ってオチじゃない？」

さくら「……だからお蔵入り？」

ネットであらすじやストーリーを調べる二人。

タケル「見つかった？ オチ」

さくら「(首を振る)」

○田舎道を歩く二人

さくら「幻聴や意識の喪失は、多分統合失調症だと思う。私の仕事はカウンセラーで、専門医の手前の仕事だけ」

タケル「じゃあカゲロウさんは」

さくら「まだ確定したわけじゃない。でも、どうしてそうなったか、考えることは出来る」

大きな屋敷の前に到着。

○その家の客間

古い映画のポスターが貼ってある大きな部屋。元映画スタアっぽい感じ。

光岡(85)「これです」

と、古い台本をテーブルの上に。

「まぼろし侍」とタイトルが。

さくら「ありがとうございます！ 探してたんです！」

タケル「でもやっぱ面影ありますね」

山賊にさらわれた光之進のシーンと、

光岡の顔が重なる。

光岡「私、息子の光之進役って表向きはな

っっているのですが……」

さくら「あ、そっから先は読みます！」

二人、むさぼるように台本を読む。

○帰り道、夕

タケル「やっぱりカゲロウは狂ってたオチか……」

さくら「しかも山賊にさらわれたのは、子供の頃の自分。記憶が混同して、ありもしない息子を探していると思ひ込んでいる」

タケル「……どうする？」

さくら「本人と対話しなくちゃ」

○ITオフィス、実験ルーム

カゲロウ「そうだ。我が子光之進は、まるまる太ってかわいいのじゃ。まだ何も知らぬ子で。儂が守ってやらねばならぬ」

さくら「背格好は？」

カゲロウ「これくらい。だあーだあーって人懐こい。それが山賊に付け込まれたのかもしれないぬ……」

さくら「奥さんはどんな方？」

カゲロウ「儂に妻はおらぬ」

さくら「？ 急に出現したわけじゃないでしょう？ 子供が」

カゲロウ「……そういえば変だ。何故気づかなかった？ ……あれ？ 何だ……痛い！ 痛い！……」

急激な頭痛に襲われるカゲロウ。

さくら「大丈夫ですか？」

駆け寄るさくら。しかしARのカゲロウには触ることが出来ない。

タケル「再起動かけたんだけど、起動しないんだよね、カゲロウ」

さくら「……そのパソコンとゴ―グル、外に出すことって出来ます？」

タケル「？ バッテリー持つか。30分く

「らいなら動かせる」

窓の外には小さく富士山が見えている。

さくら「行きましよう。富士山」

タケル「はああああ？」

さくら「山賊に襲われて富士山頂にいるんで

しょ？ 光之進くん」

タケル「何、映画のクライマックスやりに行
くつもり？」

さくら「私専門医じゃないけど、AIに投薬
も出来ないし、対話や行動療法しか治す手
はないと思うのね」

タケル「……うん」

さくらは首の傷を触る。

さくら「私がカウンセラーを辞めた理由。言
えなかったのよ。気づいてたのに、言い出
せなかった。『あなたは心の病です』って」

フラッシュバック、二年前。

診療所で、ハサミの患者に襲われるさ
くら。

首から血を流している。

さくら「私の親友だったの。気づいたときに
は症状が進んで」

タケル「……」

さくら「今度は、間違いたくない」

○富士山

重たい機材を担いでいるタケル。

タケル「ヒー、ムリ！ なんだよ富士山って！

こんな上に山賊の拠点なんてあるわけない
じゃん！ ネタバレにしてはキツイぞ富士

山！」

さくら「もうちょっとだから！」

タケル「だいぶあるじゃん！ このへんでお
茶濁そうよ！」

さくら「富士山頂じゃないと、意味ないでし
よ！」

○富士山頂

ゴーグルをかけるさくら。

さくら「お願い……出てきて……ここがどこか分る？ 富士山頂よ」

A R 空間に現れるカゲロウ。

カゲロウ「光之進！ 光之進！」

さくら「光之進はいない。あなたも薄々分つてたんでしょ？」

カゲロウ「……なんだと？……」

懐からホオズキを出すさくら。

さくら「(山賊風に悪く)坊主。このホオズキをやるう。だからこの門を開けてくれないか。おじさんたちは、中に入りたいのだ」

カゲロウ「……(思い出した顔)」

さくら「会いたい人がいるんだ。困った人は親切にしなきゃだめだろ？ その砂で、何をつくっているんだ？」

カゲロウ、子供に戻ったかのように砂遊びをする。山が出来た。

カゲロウ「富士山(にこりとする)」

さくら、ホオズキを渡す。

カゲロウ、にこりと笑って門を開ける。

さくら「ハハハハハーツ！」

刀を抜き、富士山を踏みつぶして門の中へ。

村の人の叫び声。人を斬る音。泣き叫ぶ人々の声。燃える音。

カゲロウ「……」

さくら「思い出した？ あなたが門を開けたの。それで村は全滅したの」

カゲロウ「……」

さくら「……もう一度やるわよ」

カゲロウ「？」

さくら、門を閉めるふり。

最初の体勢に戻って。

さくら「坊主、このホオズキをやるう」

カゲロウ「……」

さくら「なあ、開けてくれよう」

カゲロウ「……開けない。開けるもんか。お

前ら、山賊だな！」

刀を抜くカゲロウ。

さくら「刀でどうする？」
カゲロウ「こうだ！」

袈裟切りに山賊（さくら）を切り捨てるカゲロウ。

さくら「ぐわーっ！ やられたーっ！ 死んだー！」

ごろごろ転がり、死体になるさくら。

カゲロウ「……」

さくら「……」

カゲロウ「ははは……はははははははは！」

さくら「ふふふふふふ」

カゲロウ「はははははははははははははははははは！」

○ITオフィス

タケル「なんかフツのキャラになっちゃったなあカゲロウ。プログラムされてるみたい」

まっすぐ行って壁にぶつかったり、同じセリフを繰り返すカゲロウ。

カゲロウ「ござる！ かたじけない！ ござる！ かたじけない！」

さくら「きつと……成仏したんじゃない？」

タケル「そっか……そうなんだろうなあ……」

さくら、立ってコートを着る。

タケル「帰るの？」

首を振るさくら、首の傷を触る。

さくら「入院してる友達に、会いに行く」

タケル「？」

窓の外には、富士山が見えている。

さくら「私は、私の富士山に登らなくちゃ」

タイトル 「富士山の侍」